

# 「オノマトペ練習帳」改訂に向けて

## — 学習者の誤用調査より

波木井 優子

### 1. はじめに

筆者は波木井 (2013) において、日本語のオノマトペの種類・特徴を先行研究などから整理し、日本語の中でよく使われる日本語教育に必要なオノマトペを97語選定した。そして、それらを日本語学習者に分かりやすく解説した「オノマトペ練習帳」を作成し、実際に各レベルの学習者対象に学習効果を調査した。その結果、中級以上の学習者に有効であることがわかった。また、被験者の誤用から、「ばたばた-ばたばた」、「びりっ-ひりっ」などの清濁の区別が難しいことが把握できた。

そこで本稿では、先の研究で今後の課題とした、「オノマトペ練習帳」学習後の誤用を詳しく分析する。それにより学習者の習得しづらいオノマトペを把握し、必要に応じて「オノマトペ練習帳」の解説や練習問題を改訂し、さらなる学習効果を図りたい。

### 2. 波木井 (2013) 概要

先の研究から、本稿に直接関係する部分のみ、簡単にまとめておく。

#### 2-1. 日本語教育における基本オノマトペの選定

三上 (2006) で取り上げられた70語のオノマトペを基に、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を使い、すべてのジャンルでひらがなとカタカナの合計使用件数を調べ、150件以下のものを削除した。また、基本動詞によく共起すると考えられるオノマトペも独自に調査し追加した。また、同論文 (波木井 2013) の既知オノマトペ調査で特別な教育をしなくても中級までの学習で習得できるとわかった「そろそろ」を除くと、基本オノマトペは以下の97語となった。

〈人の精神を表すもの〉 15語

いらいら、うきうき、うっかり、うんざり、おろおろ、がっかり、くよくよ、すっきり、そわそわ、どきどき、はっと、はらはら、びっくり、ほっと、わくわく

〈人の動作を表すもの〉 42語

きよろきよろ、こっそり、しげしげ、じろじろ、そっと、ちらちら、ほんやり、ざっと、すらすら、はっきり、ぶつぶつ、ぺらぺら、ゆっくり、うろうろ、ぐんぐん、ぞろぞろ、のろのろ、ばたばた、ぶらぶら、うとうと、ぐっすり、にこにこ、にやにや、きちんと、きびきび、ぐっと、さっと、さっさと、しっかり、じっくり、じっと、すっと、ちゃんと、どっと、のんびり、ぼったり、ぱっと、ふと、ぶるぶる、ぶんぶん、ほうっと、ほんど

〈人の感覚を表すもの〉 14語

あっさり、さっぱり、さくさく、びりびり、ぶちぶち、かさかさ、さらさら、しっとり、つやつや、つるつる、ふっくら、ぎりぎり、たっぷり、ほちほち

〈状態・程度を表すもの〉 26語

きらきら、ぎらぎら、ぴかぴか、くるくる、ぐるぐる、ごろごろ、がらがら、ちくちく、ふらふら、からから、どんより、ばらばら、ぼかぼか、がたがた、かちかち、ぎっしり、ぐらぐら、すっきり、ずらり、そっくり、どろどろ、どんどん、ぴったり、めちゃくちゃ、ゆらゆら

## 2-2. オノマトペ練習帳

最初に、日本語のオノマトペの種類や特徴、母音・子音のイメージ、音の清濁に対する程度の違いなどを提示した。次に、基本オノマトペを4つのカテゴリーに分け、一つ一つのオノマトペを解説し、例文も載せた。また、それぞれのカテゴリーの後に、習得を確認するため、練習問題を作った。その練習問題は、例文に合うオノマトペを三つの中から選ぶという形式で作成した。

## 2-3. 習得度調査

「オノマトペ練習帳」に載せた練習問題を、学習前と後に二回行ってもらい、習得度を調査した。被験者は中国語母語話者4人と、韓国語母語話者2人で、中国語母語話者は皆日本語学習1年の初級学習者、韓国語母語話者は日本語学習3年以上の中・上級者であった。結果を中国語母語話者と韓国語母語話者に分けて考察したものが以下である。

まず中国人初級学習者4人についてであるが、全体に学習前と後とでは2割ほど正答が増えていた。しかし、〈人の精神を表すオノマトペ〉の分野では、4人中3人が1回目の調査より正答が減るといった結果も出た。日本在住経験のない初級の学習者にとっては、解説や練習問題のことは自体が難しく、また日本の生活事情を知らないと解答できない練習問題もあったことから、初級の段階で、教師による説明もなくひとりで「オノマトペ練習帳」で学習することは厳しいことが分かった。

次に、上級の韓国人被験者についてであるが、最初の調査の段階で60問中35問と、半分以上出歩いて、2回目の調査でも49問と8割以上正答した。被験者自身が練習帳の解説や例文などにおいて、特に分かりづらいものはなかったと言っていることから、上級者にとっては、「オノマトペ練習帳」が有効であることが分かった。

最後に中級の韓国人被験者については、一回目19問、二回目34問正解という結果であった。特に〈人の動作をあらわすオノマトペ〉の分野で4問から11問正解に増え、著しい効果が見られた。

## 3. 誤用調査

### 3-1. 方法

先の調査結果から、「オノマトペ練習帳」で学習前の練習問題正答の結果を一回目、学習後の練習問題正答の結果を二回目として、どのオノマトペが以下の項目に当てはまるかを調査する。そして、初級中国人学習者と中・上級韓国人学習者のグループに分けた中で、それぞれに共通するオノマトペを探す。

一回目		二回目	
×	→	×	(習得しづらい)
○	→	×	(習得しづらい)
×	→	○	(習得しやすい)
○	→	○	(解説がなくても理解できる)

また、清音・濁音の違いによる誤用や、一文字違いの誤用もすべて洗い出し、どの組み合わせが混乱しやすいかも把握する。なお、以下の結果に列挙するオノマトペは順不同である。

### 3-2. 初級中国人学習者結果

〈習得しやすいもの〉

ぐんぐん (伸びる)、そっと (ドアを開ける)

〈習得しづらいもの〉

くよくよ (悩む)、いらいら (腹立ち)、しげしげ (通う)、さっさと (食べる)、  
ちらちら (噂が耳に入る)、たっぷり (お湯)、じっくり (煮込む)、からから (天気)、  
つるつる (すべる)、つるつる (肌)、ふっくら (炊けたごはん)、ぶつぶつ (文句言う)、  
しっとり (美人)、ふらふら (熱で)、がんがん (ビール飲む)、がたがた (歯並び)、  
ばらばら (に住む)、あっさり (酔の物)、どっと (客が来る)、ぶちぶち (梱包材)、  
うんざり (続く雨)、すっきり (気分)、うろろう (動きまわる)、ほっと (帰宅して)、  
おろおろ (出産)、そわそわ (初めてのデート)、ばたばた (忙しい)、ごろごろ (お腹こわして)

〈清濁の誤用〉

ぴりっと (辛い) - ひりっと、びりっと  
つるつる (すべる) - ずるずる  
ぼかぼか (太陽) - ぼかぼか、ほかほか  
しっとり (美人) - じっとり  
ばらばら (に住む) - ばらばら、はらはら  
ぶちぶち (梱包材) - ぶちぶち、(ぶつぶつ)  
がたがた (歯並び) - かたかた  
ぶらぶら (外出) - ふらふら  
ばったり (会う) - ぱったり  
ばらばら (小雨) - ばらばら  
ばらばら (こしょうふりかける) - はらはら  
ほっと (一息つく) - ぽっと  
ふらふら (熱があつて) - ぶらぶら  
きらきら (目を輝かす) - ざらざら

〈一文字違い〉

からから (天気) - さらさら  
つるつる (すべる) - するする  
ゆらゆら (湯気) - ぐらぐら  
ばたばた (忙しい) - はらはら  
ぼちぼち (家を出る) - ぱちぱち  
すっと (気分が) - そっと  
そっと (ドアを開ける) - ぱっと  
どっと (客来る) - ぐっと、ぱっと

〈解説なしで理解できるもの〉

うっかり (忘れてきた)、しっかり (戸締りする)、はっきり (見える)、どんより (空)

### 3-3. 中・上級韓国人学習者結果

〈習得しやすいもの〉

ぶちぶち (梱包材)、そっと (ドアを開ける)、さっさと (食べる)

〈習得しづらいもの〉

くよくよ (落ち込んで)、いらいら (腹が立って)、じっくり (煮込む)

〈清濁の誤用〉

ぴりっと (辛い) - ひりっと、びりっと

ぼかぼか (太陽) - ほかほか

ばらばら (小雨) - ばらばら

ばらばら (こしょう振りかける) - ばらばら

ばったり (会う) - ばったり

ぶらぶら (外出) - ふらふら

ばたばた (忙しい) - ぱたぱた

ばらばら (に住む) - ばらばら

〈1字違い〉

ほちほち (家を出る) - ばちばち

すっと (気持ち) - そっと

からから (天気) - かさかさ

ぱっと (派手にやる) - さっと

〈解説なしで理解できるもの〉

うんざり (続く雨)、うっかり (忘れてきた)、うとうと (寝る)、うろうろ (歩き回る)、

はっきり (見える)、さっぱり (シャワーを浴びて)、しっとり (美人)、ドンドン (ドアたたく)、

ぴかぴか (新車)、くるくる (変わる)

### 3-4. 両グループに共通するオノマトペ

グループ分けした二つの結果を見比べると、共通するものは以下である。

〈習得しやすいもの〉

そっと (ドアを開ける)

〈習得しづらいもの〉

くよくよ (落ち込む)、いらいら (腹立ち)、じっくり (煮込む)

〈清濁の誤用〉

ばったり (会う) - ばったり

ばらばら (に住む) - ばらばら

ばらばら (小雨) - ばらばら

ばらばら (こしょうをかける) - はらはら、ばらばら

ぴりっと (辛い) - ひりっと、びりっと

ぶらぶら (外出) - ふらふら

ぼかぼか (太陽) - ほかほか

〈1字違い〉

すっと (気持ち) - そっと

(22)

〈解説なしで理解できるもの〉

うっかり (忘れてきた)、どんより (空)

#### 4. 分析

これらの結果からわかることは、まず、初級の学習者が解説なしで理解できるオノマトベが、「うっかり」、「しっかり」、「はっきり」、「どんより」で、すべて「ーり」系である。この4つは初級の学習段階で見聞きしたことがあるのだろう。そして、「オノマトベ練習帳」の独学によって、習得しやすいものは「ぐんぐん」、「そっと」であることもわかった。これらのオノマトベは、その他の類似オノマトベとの比較にも必要と思われるため、改訂版に残すこととするが、練習問題からは除くこととしたい。

また、初級段階では独学で学習しても習得しづらいものは多く、グループに共通するものは28語もあったが、中・上級者になると、共通して習得しにくいものは3語「くよくよ」、「いらいら」、「じっくり」だけであった。やはり「オノマトベ練習帳」による学習が、中・上級学習者には有効であることがわかる。しかし、ひとつ気になったのは、中・上級者が、人の感情を表現するオノマトベの内、「いらいら」をいろんな場面で選んでいることである。例えば、試験の結果が悪くて「がっかり」と、いつまでも「くよくよ」という両場面で、二人とも共通して「いらいら」を選ぶという誤用が見られる。「いらいら」の認知度が高く、それ以外の感情を表す表現には慣れていないためだと想像するが、人の感情を表すオノマトベの解説は、さらに丁寧なものに改訂する必要があるだろう。

次に清濁の交替による誤用だが、予想した通り非常に多かった。そして、両グループで比較しても、中・上級者の誤用は、ほぼそっくり初級者にも見られ、すべてがh/p/b行からはじまるオノマトベである。日本語のハ行音の変遷が影響して、h/p/b行はオノマトベのバリエーションが豊富である。h/p/b行を含むオノマトベについては、「オノマトベ練習帳」の最初の特徴を表す項目で違いを説明し、もう一度一つ一つのオノマトベを解説する際に説明する必要があるだろう。

最後に1字違いの誤用はたくさんある中で、「すっと (気持ち) - そっと」だけしか、両者に共通するものはなかった。しかし、「ぼちぼち」(家を出る)を、初級学習者が「ばちばち」、中級学習者が「ばちばち」を選んだり、「からから」(天気)を、初級者が「さらさら」、上級者が「かさかさ」を選んだりというような誤用はあった。乾燥した状態を表現する際に、砂などには「さらさら」、肌などには「かさかさ」とも言うため、これらの違いも解説に付け加えるとよいだろう。

#### 5. おわりに

本稿では、先の研究作成した「オノマトベ練習帳」で学習した後の学習者の誤用を詳しく分析した。その結果、初級の段階でも、特に解説がなくてもわかりやすいオノマトベは、「ーり」系が多いことがわかった。また、中・上級者にとって、この「オノマトベ練習帳」は有効であるが、人の感情をあらわすオノマトベについては、もっと丁寧なものに改訂が必要であることを確認した。さらに、学習者にとって特に難しいオノマトベは、ハ行の清濁のバリエーションの区別であることがわかった。

これらを踏まえ、「オノマトベ練習帳」の改訂に進む。誤用が多かったオノマトベには、特にイラストも入れることにした。本稿では紙面が限られているため、まず、精神状態を表すオノマトベについて、作文を課す部分や最後の練習問題部分は省いたものを資料1に掲載することとする。

なお、被木井（2013）の調査は、被験者の少なさ故に、その結果を一般化するには十分なものではなかったが、幸い学習者のレベルが散らばっており、すべてのレベルに共通する結果が見られたため本稿ではそれを使用し検証した。しかし、本来であればもっと多くの学習者による調査が必要であるし、「オノマトベ練習帳」を使い、教師によるオノマトベ教育を行った場合のレベル別の効果など、研究したい事柄が少なからず残っている。それらについては先の課題としたい。

## 〈資料1〉

### オノマトベ練習帳

#### [1] オノマトペとは

オノマトペとは擬音語と擬態語の両方をさすことばです。

擬音語（音）：物の音や動物の声を表した語。

擬態語（態）：音のない様子をことばで表した語。

#### [2] 日本語のオノマトペの特徴

##### 1) 形

日本語のオノマトペには、ひとつの形「A」からできたいろいろな種類があります。「A」を繰り返した形、「っ」止め、「り」止め、「ん」止めなどです。数がとても多く、オノマトベ辞典には2000語～4500語あります。その中でも、繰り返しの形「A」「A」が一番多く、全体の4割以上です。

「A」「A」	きらきら すらすら ばたばた ひらひら ふらふら ひりひり からから
「A」「っ」	*きらっ すらっ ばたっ ひらっ ふらっ ひりっ ぼっ からっ むっ
「A」「り」	*きらり すらり ばたり ひらり ふらり ふわり はらり からり ぼろり
「A」「り」の強調	あっさり うんざり ばったり ぎっしり ぐっすり はっきり うっかり
「A」「ん」	*ことん がらん ばたん ぱたん きちん ぼん ぴん からん
「A」長音	アーン キーン ブーン パーン シーン ぼお かあ ばあ じい
「A」交替	のらりくらし めちゃくちゃ からころ ちらほら ガサゴソ ガタゴト
その他	*ひょい ぼい とっと さっさ ばっば タダダ ゴゴゴ ふっくら

\*普通、うしろに「と」がついた形で使われます。

また、これらの形には共通のイメージがあります。

繰り返しの形「A」「A」	動きが続く。
「っ」止め「きらっ」「ばたっ」	瞬間的な動き。スピード感。強調。
「り」止め「きらり」「ばたり」	少しゆっくりした動きがひと区切りする。
「ん」止め「きらん」「ばたん」	はずむ動き。音が消えたあとまで残るひびき。

(24)

2) 用法 (品詞)

副詞	きらきら (光る) すらすら (読む) ばたばた (倒れる) はっきり (見える)
動詞	ふらふらする わくわくする がっかりする アーンする ひりひりする
ナ形容詞	べちゃべちゃに (なる) めちゃくちゃな (人) がたがたな (道)
名詞	ひらひら (が <sup>か</sup> ついた服) ぶちぶち (をつぶす) きらきら (を <sup>か</sup> ざる)

3) 母音のイメージ

a	大きい・ひろがり・全体・自立 <sup>つ</sup>
i	小さい・速い・細い・高い音・緊張
u	突き出る・前後左右の動き
e	否定的なイメージ
o	重い・内にこもる・自立 <sup>た</sup> たない

4) 子音のイメージ

k	かた ひょうめん 固い表面	かる ちい さま 軽い・小さい・細かい	p	ちょうりよく ひょうめん 張力のある表面	かる ちい さま 軽い・小さい・細かい
g	きつい	おも おお あら 重い・大きい・粗い	b	はれつ ひまん 破裂・肥満	おも おお あら 重い・大きい・粗い
s	なめ 滑らか	かる ちい さま 軽い・小さい・細かい	t	ちょうりよくわ ひょうめん 張力の弱い表面	かる ちい さま 軽い・小さい・細かい
z	なが うご 流れる動き	おも おお あら 重い・大きい・粗い	d	たた ゆる 叩く・緩む	おも おお あら 重い・大きい・粗い
n	のろ じょせい 鈍い・女性的		h	いき うつく やわ しず 息・美しい・弱い・静か	
m	やわ 柔らかい・はっきりしない		y	かんだか ゆ たよ うご 甲高い・揺れ・頼りない動き	
r	なが うご 流れる動き		w	どうぶつ にんげん こえ こうふん どうよう 動物や人間の声・興奮・動揺	

5) 清音・濁音・半濁音 (ぱびぶべぼ)

オノマトペには「かたかた-がたがた」「ころころ-ごろごろ」のように清濁で状態の強弱などを言い分けることばがたくさんあります。石が「ころころ」転がると「ごろごろ」転がるでは、「ころころ」は小さくて丸い石が転がる音を、「ごろごろ」は重い石が転がる音を表します。

清音…ほっと、ふらふら、ひらひら、ひりっと	弱い・細い・小さい・軽い・美しい・快い・上品
濁音…ぼっと、ぶらぶら、びらびら、びりっと	強い・太い・大きい・重い・汚い・不快・下品
半濁音…ぽっと、ぷらぷら、ぴらぴら、ぴりっと	濁音と清音の中間のようす

例えば、散らばるようすを表す「はらはら-ぱらぱら-ばらばら」には、落ちる物に以下のような違いがあります。

はらはら	涙・花びら・木の葉など	とても軽く、薄く、小さい物の静かな動き。
ぱらぱら	小粒の雨・ふりかけ・紙など	軽く小さい粒状の物、薄い紙状の物の軽い動き。
ばらばら	大粒の雨・豆・大きな葉など	大きく重い物の勢いのある動き。

\*「はらはら」は人の心理状態を表す場合にも使います。

[3] オノマトペの意味・例文

擬音語を(音)、擬態語を(態)で示します。

また、\*で類義語を示します。

(1) 人の気持ちを表すもの

• いらいら (態) 腹が立っているようす。

\* いらっと

10時の待ち合わせだったのに、30分待っても友達が来なくて、いらいらした。

彼は朝から恋人とけんかしたみたいで、一日中いらいらと不機嫌だった。



• ぶんぶん (態)

\* ぶんと

① とても腹を立てるようす

何に腹を立てているのか、妻は朝からぶんぶん怒っていた。

昨日喧嘩したのをまだ怒っていて、彼女はぶんぶんして行ってしまった。

② 強い匂いが立ち込めるようす。

香水をぶんぶんさせた女のひととエレベーターで一緒になった。

この通りはいつもおいしそうな焼き鳥の匂いがぶんぶんする。

ぶんぶん / ぶんぶん / ぶんぶん

ぶんぶんはうなづくようすに、ぶんぶんは何かを振った時の音や、虫が飛ぶようすによく使われます。

• うきうき (態) 楽しい何かがあって、こころが弾むようす。

彼は宝くじで1万円当たったと言って、うきうきしていた。

半年ぶりに兄が留学から帰って来たので、母はうきうきしている。



- わくわく (態) <sup>よろこ</sup>喜びや<sup>きたい</sup>期待で<sup>むね</sup>胸が高<sup>たかな</sup>鳴るようす。  
好きな<sup>す</sup>アイドルの<sup>らいしゅう</sup>コンサートの<sup>いま</sup>来週なので、<sup>いま</sup>今からわくわくしている。  
宝くじの<sup>とうせんばんこう</sup>当選番号を<sup>しら</sup>調べる<sup>とき</sup>時は、いつもわくわくする。



- どきどき (音・態) <sup>しんぞう</sup>心臓の<sup>こどう</sup>鼓動が<sup>はや</sup>速く、<sup>はげ</sup>激しく<sup>な</sup>鳴る<sup>とき</sup>時の音や<sup>おと</sup>そのようす。  
\*どきっと・どきりと  
入社試験の<sup>じゅうしやしけん</sup>面接を<sup>めんせつ</sup>ドキドキしながら<sup>ま</sup>待った。  
いつも<sup>かのじょ</sup>彼女と<sup>あ</sup>会うと<sup>なに</sup>ドキドキして<sup>い</sup>何も<sup>い</sup>言えなくなる。

うきうき / わくわく / どきどき

うきうきは<sup>たの</sup>楽しい<sup>こと</sup>ことが<sup>き</sup>決まっている<sup>とき</sup>時の<sup>こころ</sup>心の<sup>じょうたい</sup>状態を、<sup>たの</sup>わくわくは<sup>たの</sup>楽しい<sup>こと</sup>ことを<sup>きたい</sup>期待して<sup>とき</sup>いる<sup>こころ</sup>時の<sup>じょうたい</sup>心の<sup>あらわ</sup>状態を表します。そのため、「彼は<sup>かれ</sup>宝くじで<sup>たから</sup>1万円<sup>まんえん</sup>当たった<sup>あ</sup>と言って、<sup>い</sup>わくわく<sup>い</sup>していた」とは<sup>い</sup>言いません。また、<sup>きょうふ</sup>どきどきは<sup>ふ</sup>恐怖・<sup>おどろ</sup>不安・<sup>おどろ</sup>期待・<sup>おどろ</sup>驚きで<sup>しんぞう</sup>心臓の音<sup>おと</sup>が<sup>つよ</sup>強く<sup>な</sup>鳴る<sup>こと</sup>ことを<sup>あらわ</sup>表した、<sup>おと</sup>音に<sup>ちゅうもく</sup>注目した<sup>ひょうげん</sup>表現です。

- はらはら (態)  
① <sup>だれ</sup>誰かを見て<sup>み</sup>失敗<sup>しっぱい</sup>しないかと<sup>しんぱい</sup>心配するようす。  
<sup>かのじょ</sup>彼女が<sup>りょうり</sup>料理を<sup>し</sup>すると、<sup>け</sup>怪我<sup>が</sup>を<sup>し</sup>ないかと、<sup>み</sup>はらはら<sup>する</sup>する。  
<sup>さく</sup>昨夜は<sup>や</sup>野球の<sup>しあ</sup>試合を<sup>み</sup>はらはらしながら<sup>み</sup>テレビで<sup>み</sup>見ていた。



- ② <sup>なみだ</sup>涙や<sup>はな</sup>花びらなど、<sup>かる</sup>軽く<sup>うす</sup>薄く<sup>ちい</sup>小さい<sup>もの</sup>物が<sup>つづ</sup>続けて<sup>お</sup>落ちて<sup>お</sup>落ちるようす。  
<sup>はる</sup>春になると、<sup>みち</sup>この<sup>さくら</sup>道は<sup>はな</sup>桜の<sup>はな</sup>花が<sup>はらはら</sup>はらはらと<sup>ち</sup>散って<sup>とても</sup>とても<sup>きれい</sup>綺麗です。  
<sup>ま</sup>はらはらと<sup>かみ</sup>舞う<sup>なか</sup>紙<sup>な</sup>紙しぶき<sup>なか</sup>の中から、<sup>やくしや</sup>役者<sup>とうじょう</sup>が登場<sup>した</sup>した。

- そわそわ (態) <sup>き</sup>気になる<sup>こと</sup>ことが<sup>あ</sup>あって、<sup>お</sup>落ち<sup>つ</sup>つかないようす。  
<sup>す</sup>好きな<sup>かのじょ</sup>彼女の<sup>へ</sup>部屋の<sup>まど</sup>窓が<sup>み</sup>見え<sup>はじ</sup>始めると、<sup>そわそわ</sup>して<sup>くる</sup>くる。  
<sup>きのう</sup>昨日の<sup>ごう</sup>合コンでは<sup>こ</sup>かわいい<sup>まえ</sup>子が<sup>すわ</sup>前に<sup>お</sup>座<sup>つ</sup>ったので、<sup>お</sup>そわそわ<sup>つ</sup>して<sup>お</sup>落ち<sup>つ</sup>着<sup>な</sup>かなか<sup>った</sup>った。

はらはら / そわそわ

はらはらは<sup>だれ</sup>誰か<sup>ほか</sup>他の<sup>ひと</sup>人の<sup>み</sup>身に<sup>お</sup>起<sup>こ</sup>っている<sup>こと</sup>ことを<sup>み</sup>見<sup>まも</sup>守る<sup>たちば</sup>立場で、<sup>しんぱい</sup>心配<sup>き</sup>する<sup>も</sup>気持ち<sup>い</sup>を<sup>いう</sup>言うの<sup>たい</sup>に対して、<sup>そわそわ</sup>は<sup>こと</sup>ひとつの<sup>き</sup>事が<sup>お</sup>気<sup>お</sup>にな<sup>つ</sup>って<sup>お</sup>落ち<sup>つ</sup>つか<sup>ず</sup>ず、<sup>ほか</sup>他の<sup>こと</sup>事に<sup>しゅうちゅう</sup>集中<sup>でき</sup>出来<sup>ない</sup>ないようす<sup>い</sup>を<sup>い</sup>言<sup>い</sup>います。

- おろおろ (態) <sup>おも</sup>思いが<sup>お</sup>けない<sup>あわ</sup>ことが<sup>あ</sup>起<sup>こ</sup>り、<sup>あわ</sup>慌<sup>て</sup>てるようす。  
<sup>りょうりちゅう</sup>料理中<sup>じしん</sup>に<sup>お</sup>地震<sup>ひ</sup>が<sup>け</sup>起<sup>こ</sup>り、<sup>わす</sup>火<sup>を</sup>を<sup>わす</sup>消<sup>す</sup>すの<sup>も</sup>も<sup>わす</sup>忘れて、<sup>ただ</sup>ただ<sup>お</sup>おろ<sup>お</sup>ろ<sup>と</sup>として<sup>し</sup>しま<sup>った</sup>った。  
<sup>うんてんちゅう</sup>運転中<sup>とつげん</sup>突然<sup>よこ</sup>横<sup>たお</sup>の<sup>く</sup>バイク<sup>ま</sup>が<sup>お</sup>倒<sup>れ</sup>れ、<sup>お</sup>おろ<sup>お</sup>ろ<sup>し</sup>しながら<sup>お</sup>車<sup>を</sup>を<sup>お</sup>降<sup>り</sup>りた。

### おろおろ / そわそわ

おろおろする状況は望ましくない事で、そわそわする状況は緊張するがうれしい事だという違いがあります。したがって、「料理中に地震が起こり、火を消すのも忘れて、ただそわそわしてしまっただ」とは言いません。

- うっかり (態) 注意しないで、失敗してしまったようです。

#### \*うかうか

バイトが忙しく、うっかりしている間にレポートの提出期限が過ぎていた。  
学校に遅れそうになって急いで家を出たら、うっかり鍵をかけたまま忘れてしまった。

- うんざり (態) 物事が十分すぎて、嫌になるようです。

いくら好きだからといって、毎日毎日カレーばかりじゃ、うんざりするよ。  
最近、うんざりするほど迷惑メールがたくさん届く。



- がっかり (態) 望みが無くなり、気持ちが沈むようです。

楽しみにしていた旅行が中止になり、がっかりした。  
合格すると思っていた試験に落ちて、彼はがっかりしているようだ。

- くよくよ (態) 済んだことをいつまでも思い悩むようです。

彼は大学受験に失敗したことを、いつまでもくよくよしている。  
くよくよ悩んでいないで、次の会社に履歴書を送るように、彼女にアドバイスした。

### がっかり / くよくよ

がっかりもくよくよも、望まない事があって落ち込むことを表しますが、くよくよの方が、落ち込む状態が続いていることに注目した表現です。「くよくよ悩む」とは言いますが、「がっかり悩む」とは言いません。

- すっきり (態) 無駄がなく、気持ちが良いようです。

#### \*すきっと

好きなテニスで汗を流すとすっきりする。  
昨夜は早く寝たので、すっきりと目が覚めた。



- はっと (態)

- ① 急に思い当たるようです。

新商品のアイデアがはっとひらめいた。  
集中して試験勉強をしていて、はっと気づいたら、朝になっていた。

- ② 思いがけないことで驚いたり、とまどったりするようです。

消防車の大きなサイレンの音に、はっと目が覚めた。  
隣の席の子が髪を切ったら、はっとするほどきれいになった。

## はっと・ぱっと・ぱっと

はっとは心理的な動揺に注目した言い方なのに、ぱっと、ぱっとは動作・状態の変化に注目した言い方です。ぱっとは変化が一瞬で起こるようすをぱっとは大きく勢いがある動きを表します。

- びっくり (態) 思いがけない出来事のために、驚くようす。

## \*びくっと・びくびく

就職した会社に中学の同級生がいてびっくりした。  
初めて日本に来た時、電車賃が高くてびっくりした。

## びっくり/はっと

どちらも驚くようすを表しますが、はっとは感嘆して発することばの、「はっ」からきているので、思わず声が出るイメージ。それに対して、びっくりは鋭くほんの少し動く「びくっ」からきているので、体が一瞬動くイメージ。はっとの方が突然起こったという感じがびっくりより強く出ます。

- ほっと (態) 安心して大きく息をはくようす。

やっと期末試験が終わってほっとした。  
寝坊して駅まで全速力で走ったら、間に合う電車に乗れて、ほっとした。

## ほっと・ぽっと・ぽっと

ほっとは安心して気持ちを表しますが、ぽっとは急に何かが表れたり、火が付いたり、顔が赤くなったりするようすを表します。また、ぽっとは火が燃えるようすや顔が赤くなるようすの他に、気力がないようすも表します。

## 〈参考文献〉

- 波木井優子 (2013) 「オノマトペの考察——効果的な日本語教育を目指して」 東洋大学学位論文
- 浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトペ——音象徴と構造——』 くろしお出版
- 渡邊裕子 (1997) 「日本語教育におけるオノマトペの扱いについての一考察」 『学校教育学研究』 第9巻、兵庫教育大学 学校教育研究センター
- 浅野鶴子・金田一春彦 (1988) 「擬音語・擬態語概説」 『擬音語・擬態語辞典』 角川書店
- 金慕箴 (1989) 「中国における日本語の擬音語・擬態語教育について」 『日本語教育』 68号、日本語教育学会
- 中石ゆうこ他 (2011) 「中国語を母語とする学習者は日本語のオノマトペをどの程度使用できるのか」 『中国語話者のための日本語教育研究』 日中言語文化出版社
- 角岡賢一 (2007) 『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』 くろしお出版
- 田守育啓 (2002) 『オノマトペ擬音・擬態語をたのしむ』 岩波書店
- 秋田喜美 (2013) 「共起特性から見るオノマトペのフレーム意味論」 『オノマトペ研究の射程』 ひつじ書房

- ツィガルニツカヤ レナ (2007)「日本語オノマトベに対するピリーフ」『筑波応用言語学研究』14号、筑波応用言語学研究
- 岡本克人 (1988)「オノマトベに関する対照言語学的考察」『高知大学学術研究報告』第37巻、高知大学
- 篠原和子・川原繁人 (2013)「音象徴の言語普遍性「大きさ」のイメージをもとに」『オノマトベ研究の射程 - 近づく音と意味』ひつじ書房
- 三上京子 (2006)「日本語教育のための基本オノマトベの選定とその教材化」『ICU 日本語教育研究』ICU 日本語教育センター
- 玉村文郎 (1989)「日本語の音象徴語の特徴とその教育」『日本語教育』68号、日本語教育学会
- 田嶋香織 (2006)「オノマトベ (擬音語擬態語) について」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』16号、関西外国語大学留学生別科
- 国立国語研究所 (1984)『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版
- 鈴木孝夫 (1990)『日本語の語彙と表現』大修館書店
- 丹野眞智俊 (2007)『オノマトベ (擬音語・擬態語) をいかす』あいり出版
- 芋阪直行 (1999)『感性のことばを研究する 擬音語・擬態語に読む心のありか』新曜社
- 日本語教育学会代表 林大 (1976)『日本語教育ハンドブック』大修館書店
- 小野正弘 (2007)『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトベ辞典』小学館
- 小野正弘 (2009)『オノマトベがあるから日本語は楽しい』平凡社
- 小野正弘 (2015)『感じる言葉オノマトベ』KADOKAWA
- 山口仲美 (1989)『ちんちん千鳥のなく声は』大修館書店
- 山口仲美 (2002)『犬は「びよ」と鳴いていた』光文社
- 山口仲美 (2003)『暮らしのことば 擬音語・擬態語辞典』講談社
- 山口仲美・佐藤有紀 (2006)『「擬音語・擬態語」使い分け帳』山海堂
- 天沼寧 (1974)『擬音語・擬態語辞典』東京出版
- 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」
- イラスト 波木井有里

(はきいまさこ 二松学舎大学非常勤講師)